

## 冬至

今日は冬至。24 節気の一つだが、我が家でも毎年カボチャを食べたり、ゆず湯に入ったりする。もっとも、ゆず湯の方は息子が大好きなので、息子が我が家に帰ってくるのを待って、28 日とか 29 日にゆず湯をすることも多い。24 節気は中国の暦に由来するが、日本的な季節の節目としては 5 節句がある。こちらの方が一般に楽しまれているかもしれない。七草の日、桃の節句、端午の節句、七夕、さて、9 月 9 日が何であったかはいつも忘れてしまう。多分、これは中秋（月見）と重なってしまうからだろう。宮中の行事に由来するだけあって、日本人としては 5 節句の方がなじみがある。そうしたなかにあっても、クリスマスを含めて、冬至に相当するものは世界中にあって、太陽が再び高度を上げて、光があふれてくるという期待感・季節感誰にでも共通の感覚で、我々日本人にとっても、季節の行事としてははずせない。て

私はこういう季節の行事が好きで、1 月 7 日には七草粥を食べ、娘がうちにいたときには、桃の節句にちらしずしをつくりハマグリの吸い物と一緒に食べた。今でも 5 月 5 日にはしょうぶ湯に入る。さすがに七夕祭りに笹飾りは飾らないが、小さなアパートでも子供がいるのだから窓辺に笹飾りを見るとゆかしく、ほほえましく感じる。以前は、中秋の日には、団子をつくっておそなえし、里芋を食べた。

水産屋にとって季節の行事と言えば、土用丑だろう。こちらの方は、やはり 24 節気 5 行説に由来するから、季節の区分としては中国産なのだが、土用丑に鰻を食べるとなると極めて日本的な季節の行事だ。ウナギについては、養殖原料としてのシラスウナギの漁獲量の低下や、ヨーロッパウナギやニホンウナギの絶滅の危機が叫ばれて、養殖業も含めて鰻産業さらには消費者まで含めてどのように対応すべきかが話題になる。季節の行事を楽しみたい人間としては、少しお金を奮発しても、なんとか文化を残したいと考える。若い人の中には、やたらとイベントをつくってバカ騒ぎをしている人もいる。バレンタインや最近ではハローウィンなどもそうだろう。その由来はともかくも、イベントを作ってやたらに騒いでムダ金を使う。それも経済に貢献しているのだから。だったら、いっそそういうところを強調して、土用丑を楽しむというのもありそうだ。

そういう話を若い世代としたら、土用丑などはイベントではないと言われた。ハローウィンがイベントで土用丑がイベントではないというのは納得できないが、若い人の感覚ではそうなのかもしれない。着物を着た女性と鰻屋の 2 階の座敷で鰻を待ちながら、漬物などで日本酒を飲む、彼女はうちわを手にして差し向かいである。川辺の老舗の鰻屋で、かば焼きができるのはかなりの時間がかかる。ゆったりとした時間が流れていく。悪くないと思うのだが、こういう情緒は伝わるだろうか。

こういう話をしたら、ひどく金がかかりそうだと言われた。遊びだから貸衣装でもかまわないだろう。いっそ、貸衣装屋を併設した鰻屋を作ったらどうだろう。ハローウィンでバカげたぬいぐるみを着て仮装するよりはました。  
(20191222)